

第2回（平成20年度）IODP部会・執行部会 議事次第（案）

日時：2008年5月24日（土） 14：30～17：30

場所：JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席者（敬称略）

執行部：川幡穂高（東京大学）阿波根直一（北海道大学）
池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター）井上麻夕里（東京大学海洋研究所）
小平秀一（海洋研究開発機構）坂本竜彦（海洋研究開発機構）松本 剛（琉球大学）
山崎俊嗣（産業技術総合研究所）山田泰広（京都大学）山本啓之（海洋研究開発機構）

オブザーバー：徐 垣（海洋研究開発機構高知コア研究所）
渡邊 巖（高知大学海洋コア総合研究センター）

文部科学省海洋地球課：宿利一弥
海洋研究開発機構 国際課：肥田慎司
海洋研究開発機構 CDEX：川村善久

事務局：中山敦志 加賀谷一茶 梅津慶太 吉岡由紀

欠席者（敬称略）

執行部：荒井晃作（産業技術総合研究所）安間 了（筑波大学）北村晃寿（静岡大学）
高澤栄一（新潟大学）日野亮太（東北大学）

議事次第

報告事項

1. 「ちきゅう」の今後のスケジュールについて〔川村オブザーバー〕
2. Canterbury 乗船研究者選出状況について〔阿波根部会長補佐〕 [資料 1-1,1-2]
3. 韓国 地球観測年(国際地球年同時開催)記念シンポジウム参加報告〔川幡部会長〕 [資料 2]
4. J-DESC タウンホールミーティング準備状況について〔井上委員,事務局〕 [資料 3]
5. J-DESC 新会員機関加盟について〔川幡部会長〕
6. J-DESC コアスクール_古地磁気コースの準備状況について〔山崎委員〕 [資料 4]
7. 平成20年度 IODP 掘削プロポーザル作成支援課題 募集結果について〔事務局〕 [資料 5]
8. 新専門部会(掘削研究/調査航海)設立の準備状況について〔山本委員,事務局〕 [資料 6,6-1,6-2]

検討事項

9. J-DESC 会費の口数制化と J-DESC 規約変更について [資料 7(1)・(2)]
10. 高知コアセンター関連 [資料 8-1]
 - (1)IODP 関係での KCC 利用法・手順・支援体制について [資料 8-2～8-8]
 - ・Pre-Cruise Training
 - ・After Cruise Work (ACW)
 - (2)J-DESC コアスクール開催手順など
 - ・J-DESC から実施機関への開催協力依頼書
 - ・参加者受付方法
 - ・安全管理体制
 - ・学生保険
 - ・インターンシップによる単位認定が可能か
 - (3)その他
11. 会員提案型活動経費選考委員会メンバーについて [資料 9]
12. その他
 - ・次回開催日程 など

議事録（案）

はじめに事務局より資料の確認がなされた。

報告事項

1. 「ちきゅう」の今後のスケジュールについて

川村氏より標記の件について報告がなされた。

- ・ 「ちきゅう」のドライドックの検査においてアジマススラスタに不具合が見つかった
- ・ CDEX としては3月くらいから航海が始められればいいと今のところは思っている
- ・ 今後の NanTroSEIZE の計画については6月2日、3日に開催される PMT で検討される予定
- ・ 「ちきゅう」のラボなど、有効に活用できることがあれば、前向きに考えるので提案してほしい

2. Canterbury 乗船研究者選出状況について

阿波根部会長補佐より資料1-1、1-2に基づき、標記の件について報告がなされた。

- ・ Canterbury 航海は8つの乗船枠に対し7名を推薦した
- ・ ANZIC と乗船枠のトレードの交渉を行った（他の PMO にもメールを送った）
- ・ IODP-MI によると掘削船を越えたトレードは不可のため、NanTroSEIZE の乗船枠との交換はできないとのこと
- ・ Canterbury と Bering Sea について1名の乗船枠を条件付で交換する
- ・ その条件とは、1) Bering Sea が実施されること、2) Bering Sea 航海実施までに ANZIC が年間乗船枠を使い切っていないこと
- ・ オーストラリアは1/4 ユニット（1ユニット＝乗船研究者2名×12ヶ月分）の計算で年間3名の乗船枠があるとみなされている
- ・ 条件が満たされなかった場合は、日本の乗船枠1名分は棄権となる
- ・ 以上の条件からみれば、Bering Sea が2009年に実施されることになればトレード不成立となる
- ・ Wilkes Land 航海は6名を推薦し、2名を追加公募中（5/26まで）
- ・ 追加応募が無い場合、乗船枠のトレード交渉を行う予定

引き続き、川村氏より JR についての情報提供があった。

- ・ 8月にドックを出る。11月から復帰の予定は変わらないだろう
- ・ OTF：FY09はCanterbury→Wilkes Land→PEAT I→PEAT II→太平洋でNon-IODP（Wilkes Landの後の可能性もある）
- ・ Non-IODP が太平洋で実行されればFY10にBeringか？

3. 韓国 地球観測年（国際地球年同時開催）記念シンポジウム参加報告

資料2に基づき、川幡部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ 4月23日、24日にソウルで開催された地球観測年記念シンポジウムに出席し、講演およびIODPに関係する政府役人や研究者に面会した
- ・ 東シナ海（沖縄トラフ）の共同掘削提案には韓国の研究者は好意的であった
- ・ J-DESC コアスクール（特にエキスパートコース）に韓国の若手研究者が参加できるようにしてほしいとの要望があった

4. J-DESC タウンホールミーティング準備状況について

資料3に基づき、事務局より標記の件について報告がなされた。

- ・ 会場とプログラムが確定
- ・ 17:30 開場・ドリンクおつまみ提供開始、18:00 話題提供、18:40 フリーディスカッション、19:40 終了
- ・ 会場費・食事代込みで25万円を計上する予定
- ・ 会場内にポスターも掲示し、掲示板の借用代は AESTO が負担する

- ・ 会員機関所属の参加者は無料、それ以外は 1,000 円の参加費を徴収する

5. J-DESC 新規会員機関加盟について

標記の件について川幡部会長より報告がなされた。

- ・ 東工大が J-DESC に加盟した
- ・ 次のターゲットは九州大比較社会文化研究院（前広島大学の狩野氏が異動）
- ・ 事務局では帝国石油にアプローチしたところ、好感触であった
- ・ 日本郵船にもアプローチ中、返事待ちの状態
- ・ 半日くらいの企業向けシンポジウムをやってほしいとのリクエストがある
- ・ 企業はコアスクールにも興味があるようである

6. J-DESC コアスクール・古地磁気コースの準備状況について

資料 4 に基づき、山崎委員より標記の件について報告がなされた。

- ・ 8 月 6 日～8 日の 3 日間、高知コアセンターで開催予定
- ・ 乗船研究と陸上研究（高知コアセンター）に関する内容を半々ずつ
- ・ 受講する動機を申し込み時に書いてもらう予定
- ・ 講師旅費は高知海洋コア総合研究センターの小玉氏に負担していただけることになり、J-DESC の負担はほとんどいらない見込みである
- ・ 6 月前半には参加募集をかけたい

山田委員よりロギングコースの募集が始まっている旨の報告があった。

- ・ 6～9 名を募集
- ・ JAMSTEC 横浜研究所で開催
- ・ CDEX に協力をしてもらっている

7. 平成 20 年度 IODP プロポーザル作成支援課題 募集結果について

資料 5 に基づき、事務局より標記の件に基づき報告がなされた。

- ・ 今年度は 1 件のみ応募（鹿児島大学小林氏）があった
- ・ 本件については一昨年、昨年と本支援が採択されている
- ・ 今後の対応については IODP 国内科学計画委員会にて検討を行う予定
- ・ 来年度以降、掘削研究専門部会に本支援費の活用促進を求める
- ・ 6 月末までに掘削研究専門部会にて審査、7 月はじめに IODP 国内科学計画委員会にて承認の予定

8. 新専門部会（掘削研究／調査航海）設立の準備状況について

資料 6、6-1(1)、(2)、6-2(1)、(2)に基づき、事務局、山本委員、阿波根部会長補佐より標記の件について報告がなされた。

- ・ 手続き上、現状としては、各専門部会の会則の作成を行っている
- ・ 今後は IODP 国内科学計画委員会および J-DESC IODP 部会幹事会の承認後、設置・委嘱という流れで手続きを行う
- ・ SSEP はコミュニティとして対応しなければならないことは無くなったため、SSEP への対応に関するタスクは無い

掘削研究専門部会

- ・ 掘削研究専門部会の委員のうち、数名が 1 年の任期とする
- ・ 具体的なタスクについては会議を開催して策定する予定
- ・ 「掘削科学の育成」を「掘削科学の振興」に修正

調査航海専門部会

- ・ 調査航海専門部会の会則についてはこれから西部会長に相談の上、よりわかりやすい表現に修正する

検討事項

9. J-DESC 会費の口数制化と J-DESC 規約変更について

資料 7 (1)、(2) に基づき、事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 正会員の会費を口数制にするには規約の改正（J-DESC 総会での承認）が必要
- ・ 会員機関側としては 2 口以上会費を払う理由を考える必要がある
- ・ 会員を増やして増収となったら、コアスクールのように技術ではなく知識を身につけさせるようなサマースクールができればよい
- ・ この件については今後少し時間をかけて考える

10. 高知コアセンター関連

資料 8-1～8-8 に基づき、池原委員より標記の件について説明がなされた。

(1) IODP 関係での KCC 利用法・手順・支援体制について

- ・ J-DESC 会長から高知大海洋コア総合研究センターのセンター長と JAMSTEC 高知コア研究所の所長に向けて J-DESC の事業（コアスクール、プレクルーズトレーニング、アフタークルーズワーク）に関する協力要請を行い、高知コアセンターの運営協議会にて了承された
- ・ J-DESC 事務局が受付窓口になり、分析作業等の支援は高知大および JAMSTEC の高知コアセンタースタッフが対応
- ・ 高知大、JAMSTEC スタッフそれぞれ 1 名からなる KCC-ACW 事務局を立ち上げ、J-DESC 事務局と連携する
- ・ アフタークルーズワーク応募に対してナンバーを割り振り、状況によってリバイズできるようにすると、よりやりやすい（新規申請とリバイズ申請の区別もつく）
- ・ アフタークルーズワークはモラトリアム期間中に、個人ではなく、複数人が使うデータの取得を目的としたものが対象*となり、申請が妥当かどうか判断するのは調査航海専門部会（この際、Co-chief への確認を行う）
- ・ これを受けて高知コアセンターはマシンタイムなどの調整を行う（全国共同利用を含めた全体の枠組みの中で行う）
- ・ 確認書について、所属長の確認ももらう必要がある
- ・ 高知コアセンター以外でもアフタークルーズワークを行う可能（今後順次書類を整備）
- ・ 以上、内容をまとめて J-DESC ウェブページにアップし、支援を開始・PR することが承認された
- ・ 保険に関して、NanTroSEIZE は日本人のみなので従来方式（確認書）で対応、コアスクールは一括で参加者に保険をかける、それ以外のケースは別途検討する

*モラトリアム期間中はサイエンスパーティがコントロールするデータを出す分析しかできないことになっている

(2) J-DESC コアスクール開催手順など

- ・ 受付窓口は J-DESC 事務局に統一、受付フォームも統一
- ・ 企画担当者は IODP 部会執行部会に企画案を提出し、日程調整を行う
- ・ J-DESC から実施機関へ開催依頼書を送付
- ・ 企画担当者と事務局とで実施要領書を作成
- ・ 講師、参加者に対する安全対策の説明を義務付ける（J-DESC が開催担当者に要請）
- ・ J-DESC が団体にイベント傷害保険をかける（参加費でまかなう）
- ・ 参加する学生には学生傷害保険への加入確認書、指導教員の確認書の提出の義務化は盛り込まない

インターンシップによる単位認定が可能か

- ・ 単位取得のためにたくさんの参加申し込みがくるなどマイナスの面もあるため、J-DESC としては推進しない
- ・ 受講証明書を出すことをウェブページに記載し、単位を認定するかどうかは各大学に任せる

11. 会員提案型活動経費選考委員会メンバーについて

資料9に基づき、事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 新委員として、安間 了氏（筑波大学）、尾田太良氏（東北大学）、山田隆二氏（防災科技研）が承認された
- ・ 執行部や専門部会委員でも審査する立場になれば本経費に申請することは可能

12. その他

次回開催日程

今後調整する